

第16回 三経連経済懇談会 北経連の主な発言の内容

○挨拶 [永原会長]

- ・このたびの東日本大震災においては、尊い命をはじめ、数々の地域の宝が失われた被災地の苦しみはわれわれの想像をはるかに超えるものであり、誠に心痛に絶えない。心中より深くお見舞い申し上げます。
- ・本年度、当経済連合会は西日本経済協議会の幹事の年にあたり、この協議会を通じた被災地支援に力を入れている。4月の『東日本大震災復興支援本部』の立ち上げ、5月の「東日本大震災からの復興に向けた西日本からの第1次提言」のとりまとめのほか、東北地域の産品を購入する『BUY東北』や、東北の観光地を訪れる『VISIT東北』運動への協力、6つの経連スタッフによるボランティアバスの被災地への派遣などであり、今後も継続していく。
- ・北経連の最大の課題は、北陸新幹線の敦賀への延伸、関西への接続による全線整備の実現である。

○懇談・テーマ1「大震災からの復興と災害に強い地域づくり」[犬島副会長]

- ・東日本震災による被災者の方々に深くお見舞いを申し上げますとともに、復旧に尽力されてきた方々に敬意を表する。
- ・大震災の被害を見るにつけ、災害への備えが大変重要であることを再認識させられる。近年は、目先の便益を優先するあまり、国家運営の基本となる「安心・安全」につながる備えや、大災害を想定したインフラ整備が怠りがちであったのではないか。
- ・わが国は東京への一極集中が極めて顕著な『一極一軸型の国土構造』を有する国であり、大きな災害が太平洋側で起こった場合、その被災の範囲や規模・損失はまさに国家の存亡に関わるものとなる。東海・東南海・南海の巨大地震が発生する確率も非常に高い。
- ・国土全体を『一極一軸型から分散複軸型へ』転換することが重要であり、日本全体が『災害に強い国』となるための、社会資本への投資を強く政府に要望する。
- ・
- ・東北・北海道・北陸地域においては、必要不可欠な社会資本の整備が大都市圏に比較して大幅に立ち遅れており、整備新幹線や高規格幹線道路などの高速交通ネットワークにおけるミッシングリンクの解消も進んでいない。北陸新幹線は、東海道新幹線の代替補完機能を有しており、災害に強い複軸型国土構造を構成する上で鍵となるインフラであり、早期の延伸・開通が必要。

○懇談・テーマ2「将来の希望となる新たな産業の創造」[要明常任理事]

- ・北経連では、イノベーション推進事業部を通じ、北陸地域の活性化を図るための産業支援活動として、産学官連携および知的資産経営の促進によるイノベーション創出の支援事業、ならびに生産性・付加価値向上のための企業間連携の支援事業を展開している。本日は3つの分野での取り組みを紹介する。
- ・＜次世代ロボット＞
北陸県内の大学・メーカー・ユーザー間で、研究会での情報交換を通じ、次世代ロボットに関わる要素技術の進展を図るとともに、インフラ企業・病院等、ロボットユーザーへの見学会や意見交換によるニーズ把握を実施していく。来週17日に第1回研究会を開催する。
- ・＜コンバートEV＞
自動車関連産業が集積する北陸の地域特性を活かして、企業・行政・大学の力を結集し、新たな産業分野を創出することを目的に、今年2月に「次世代自動車フォーラム in 北陸」を発足。地元メーカーの協力を得て、安価で、かつ取付け車種を問わない汎用EV改造キットの開発に取り組んでいる。改造キットを装着した試作車が来月にも完成し、実際の走行データをもとに、実用化に向けて、航続距離・耐久性等に関する実証試験を行う予定となっている。
- ・＜医療ライフケア＞
まだ研究会の立ち上げを行っている状況ではあるが、北陸の高い医薬関連産業の集積などを活かし、クラウド等のIT技術と組み合わせることによって、北陸の大学病院や公立・民間の医療機関の患者情報の広域ネットワーク化など新たな事業の創出につながる産学官連携活動を支援する。

以上